

平城宮跡・藤原宮跡の整備

平城宮跡発掘調査部・飛鳥藤原宮跡発掘調査部・庶務部

1. 平城宮跡の整備 (10)

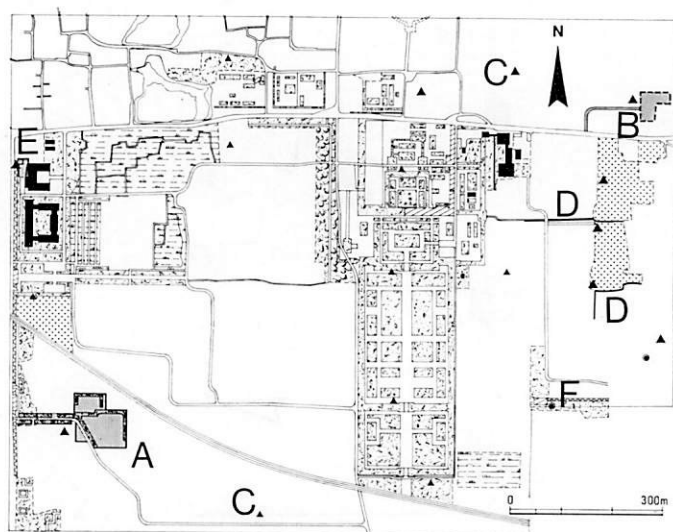
1979年度の宮跡整備は、多目的苑地の造成、法華寺町民家隣接地の盛土整地、地下水位観測孔の設置、水路改修、収蔵庫周辺整備および照明灯設置工事を行なった。

多目的苑地の造成 平城宮跡地内において1990年までに発掘調査を実施する計画のない地域については、遺構・遺物の保護を計りつつ、緑地等の整備により周辺住民の日常的な利用をも考慮した休息、散策、レクリエーションの場所として活用する構想を持っている、そこで宮西南部の玉手門跡の東方で近鉄奈良線の南に多目的苑地の造成を行なった。玉手門跡(1972年度整備済)からのアプローチを考え、両側に10m幅の植樹帯をもつ幅員4.5mの苑路を、1971年度に設けた仮設道路まで東に延長し、仮設道路の東側に接する形で苑地を造成した。苑地は現地盤面より平均35cmの盛土を行ない、その上に10cm厚の碎石透水層を設け、さらに15cm厚の山土で覆い仕上げた。苑地の外周部には幅5.5mの植樹帯を設け、ムクノキ、クヌギ、シラカシ、ヤブツバキ等の植栽を行なった。(52頁図A)

法華寺町民家隣接地の盛土整地 1978年度より東院地区東辺部で行なっている害虫の繁殖防止のための盛土整地工事で、東院地区北方の民家隣接地3,550㎡について実施した。なお乾燥期の砂塵発生を防ぐため、表層には化粧砂利を厚さ3cmで敷き転圧し仕上げた。(52頁図B)

地下水位観測孔の設置 木質遺物の保存に大きな影響を及ぼす地下水についてその水質や水位を継続的に観測調査分析が出来るよう1971・72年度に宮内30ヶ所に観測孔を設けている。しかし東院地区の大部分がそれ以降に買収されたために、観測孔はまだ完備されていなかった。

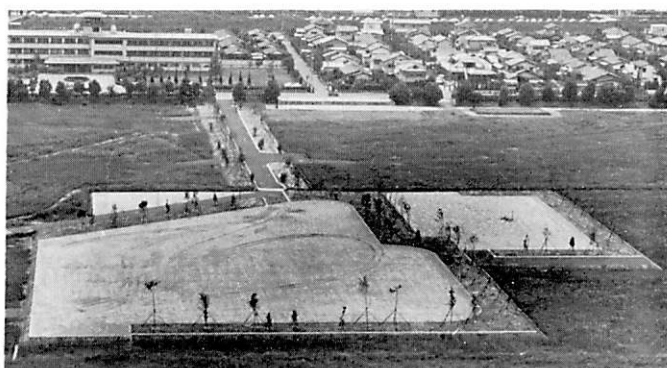
そこで本年度は東院地区を中心に9基の観測孔を新設し、揚水試験、水質分析、土質試験、花粉分析、標準貫入試験などを行なった。また既に設置していたもののうち、その後破損又は砂利等の投入で、採水不能になっていた9基についても、元の位置の近くに観測孔を新設した。今回設置した観測孔の深さは3m孔13基、4m孔3基、5m孔2基である。(第1図C)



平城宮跡の整備図

水路改修 法華寺町 民家から宮内に流入する水路2本について、草刈り、泥さらえ等の管理手間を軽減し、水路兩岸の残存遺構を保護するため、鉄筋コンクリートU形ブロックを用い改修を行った。

(52頁図D)



多目的苑地

その他 平城宮資料館の北で第3・4収蔵庫の西側に残っ

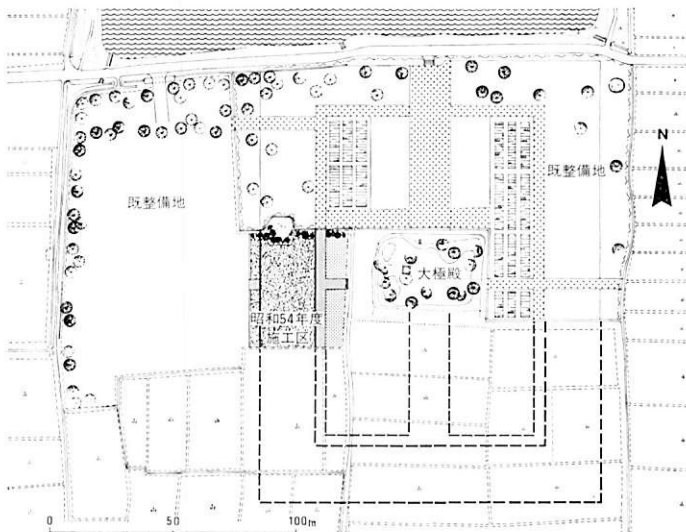
ていた民有地を1978年度に買収したことから、収蔵庫西側の舗装整備を行った。(52頁図E) その他1977年度に復原整備した東院南門基壇周辺2ヶ所に水銀灯を設置した。(52頁図F)

	多目的苑地	民家隣地 盛土整地	地下水位 測孔設置	水路改修	収蔵庫 周辺整備	照明設備
規模	11,700㎡	3,550㎡	18基	337.8m	1,630㎡	2基
工費 (千円)	42,840	5,810	5,450	473.0	4,120	1,200

2. 藤原宮跡の整備 (4)

1979年度の藤原宮跡の整備は、大極殿西方で1977年度の第21次発掘調査で確認された西殿を中心とした西面南北回廊部分の保存ブロックの延長工事を主とした4550㎡について整備を行った。保存ブロックは回廊遺構を中心に含む22m幅を凝灰岩緑石で示し、盛土張芝を行なっている。なお保存ブロックの造成縦断勾配は、大極殿南前面から宮跡南端に至る現況地形の平均勾配0.7%を採用し、1978年

度の施工南端に接続した。保存ブロックの内側(東)には幅員4mの苑路を設け、本年度施工区北端にある水路の横断には鉄筋コンクリートブロック溝蓋を布設し、既設苑路と接続した。なお西側多目的苑地から大極殿へのアプローチとして、西殿の中心線を通る位置に幅員4mの砕石敷苑路を設け、その両側は砂利敷きとした。工費は6,855千円であった。(渡辺 康史)



藤原宮跡整備図